

# 日赤なごや

Vol. 22

2008.November

## CONTENTS

◆ 糖尿病について

◆ 外来診療部門移転と新診察券交換のお知らせ

◆ 病理部門の紹介

◆ 医療社会事業相談室のご案内

◆ お薬の知識 ⑩

～血圧を下げるお薬(2) 利尿剤～

西棟完成 平成21年1月5日オープン



+ 地域医療支援病院  
名古屋第一赤十字病院

### 理念〈私たちの誓い〉

私たちは医療の倫理を守り、赤十字の人道博愛精神のもとに、皆さまと共に医の道の理想を追究いたします。

○ 皆さまとの出会いを一期のごとく心得、その痛みを分かちあい、苦しみを共にしつつ、一日も早く健康の幸せを喜びあえるよう努めます。

○ 皆さまとの厚い信頼に立って、お互いに心を開き、明るく優しい環境のもと、日々を清澄な心で奉仕します。

### 基本方針

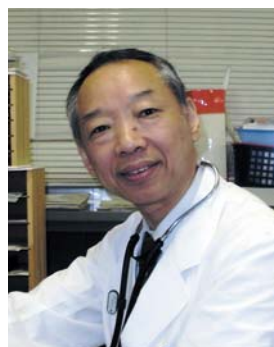
1. 患者さま本位の医療と安心できる癒しの場を作ります。
2. 高度で良質な医療をします。
3. 救急医療を充実します。
4. 病診連携を推進し、一貫したきめ細かい医療を行います。
5. 医療関係者の教育・研修を推進し、治療・看護・介護・福祉を実践します。
6. 災害救護と国際救援活動を積極的に行います。
7. 健全経営を維持し、この基本方針を達成いたします。





# 糖尿病について

内分泌内科部長 山守 育雄



今、世界中で糖尿病患者が激増を続けています。わが国でも推定患者数は820万人に達し、40歳以上の3人に1人は糖尿病かその予備軍といわれています。なぜこんなに糖尿病が増えたのか。それにはここ40年で大きく変わった日本人の食生活と社会生活、そして高齢化が関わっています。

かつての日本人の食事は、塩分が多いことは問題でしたが、ごはんを中心に野菜や海藻など、食物繊維を多く含み、脂肪分の少ない、いわば健康食とも呼ぶべきものでした。そのため欧米人に見られるような高度の肥満は少なく、糖尿病患者も少なかったのです（昭和25年には約10万人）。それが高度成長とともに脂肪の摂取量が約3倍に増加し、煮物や酢の物などの野菜料理が減って食物繊維が減少したことにより、今日のような肥満と糖尿病の増加を招いたとされています。また主婦の家事労働に象徴されるように、機械化のおかげで肉体労働が減り、意識しないと運動不足になる生活も糖尿病増加の要因の一つです。

健康な人たちにはあまり知られていないことですが、糖尿病はただ単に「甘いものが食べられない」だけの病気ではありません。安易に放置すると失明、腎不全、壊疽（腐る）による足の切断などの原因になるほかに、脳梗塞や心筋梗塞の元となる動脈硬化を進める一大要因でもあります。さらに糖尿病の方ではがんの発生率も一般人に比べて1.2倍ほど高く、男性で9年、女性で13年若死にしているという調査結果もあります。

症状がなくても安心はできません。かかりつけの医師をお持ちになり、きちんと通院を続けることが大切です。ただ単に医師の処方した薬をのむだけでなく、日頃から食事や運動に心を配りましょう。まず1日3食欠かさず食べることを。ごはんは男性なら軽く1.5杯から2杯は食べさせて下さい。女性なら1杯から1.5杯が適量です。その方が途中でおやつを食べなくなり、油は極力、控えましょう。外食が多い人は和定食のようなものがお勧めです。麺類はおかすが多いので避ける方が無難です。多いと思ったら、全部食べずに残す勇気を持ちましょう。アルコールは週末の楽しみにとっておくとよいですね。当院では糖尿病を抱えながらも元気で長生きするために、医師はもちろん、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士などからなる療養指導チームが皆さんを応援しています。またご住所のお近くの先生にも安心してかかっていたら、他病院・診療所の医師とも定期的な勉強会を行い、地域全体の糖尿病診療のレベルアップを図っています。11月4日（火）には赤十字健康教室でも糖尿病を取り上げます。皆様のご参加をお待ちしています。

## 外来診療部門移転と 新診察券交換のお知らせ

西棟が完成したことにより、既存棟のすべての部門が年末開始にかけて移転をいたします。これに伴い、現外来部門での診療は12月26日（金）をもって終了いたします。

平成21年1月5日（月）からは、西棟の新しい外来部門に移転し、診療を始めます。診察券も新しく変わりますので、12月26日（金）までに指定の窓口で現診察券と交換の手続きをされますようお願いいたします。

## 病理部門の紹介

画像診断などで病変が見つかったと、内視鏡検査や、穿刺細胞診（腫瘍に針を刺して細胞を取る検査）、手術による病変の採取、切除などが行われます。その細胞や、病変部の組織を見て、病気を診断するのが病理部です。腫瘍に限らず、ほとんどの疾患は病理診断によって確定診断されます。そのため、病理診断は「最後の診断」とも呼ばれます。病理診断は、専門性が高く、当院では4名の病理医（2名は病理専門医）が診断しています。病理診断には、細胞診断と組織診断があります。細胞診断は、婦人科の擦過細胞、喀痰、尿中の細胞や、乳腺や甲状腺などの腫瘍穿刺細胞から異常な細胞を見つけ出します。たくさん検体から見つけ出す大変な作業で、当院では3名の専門の細胞検査師が働いています。見つかった異常細胞は、病理医（細胞専門医）によって最終診断が行われます。病理診断は、内視鏡検査や手術で採取された病変を、病理標本にし、顕微鏡で検査を行います。4名の熟練した技術により、全て手作業で組織標本（プレパラート）が作られます。組織標本を顕微鏡で観察して診断を行います。病気の診断だけではなく、適切な治療法、予後、原因など多くのことを読み取ります。病理診断は主治医に伝えられ、皆さんに説明されます。病理部は病院における「扇の要」です。皆さんにお目にかかる機会も多くありませんが、希望により直接説明を行います。よその病院での病理診断も、セカンドオピニオンをお受けします。当院では、最先端の遺伝子検査など、オーダーメイド治療に対応した病理診断も提供しています。

病理診断についてわからないことや、詳しい説明をご希望の際は、ご遠慮なく主治医を通じてお問い合わせ願います。



# 医療社会事業相談室のご案内



医療社会事業相談室の仕事の内容は、患者・家族の方々の病気やけがによる「生活のしづらさ」を社会福祉の立場で相談にのることです。

社会福祉士や精神保健福祉士の国家資格をもった専門の相談員（医療ソーシャルワーカー）が相談に応じます。

相談内容は①経済的な問題の相談、②介護支援や自立支援など介護サービスの相談、③退院援助の相談、④社会福祉サービスの利用相談、⑤社会復帰・職業復帰の相談、⑥高齢者の養護や子育て支援の相談などです。

具体的な例をお示しすると、入院し収入の減少や収入が途絶えた場合に医療費の負担の軽減の相談や生活費に困窮する場合にその確保に向けての相談にのります。また、公費負担医療制度の利用相談にも応じます。

意識障害や認知症などにより財産管理や金銭管理能力が低下した場合に対して成年後見人制

度の利用や地域福祉権利擁護事業の利用相談にのります。

要介護の状況となった場合に訪問介護・訪問入浴・訪問看護・通所介護・通所リハビリ・ケアマネージャーの確保など介護保険サービスや自立支援サービスの利用についての相談を行ない、地域で安心して暮らすお手伝いをしています。

医師から退院許可は出たが、在宅では介護力が整わないことによる介護保険施設への入所や医療機関への入院の相談、さらに回復期リハビリテーション病院など専門医療機関への転院相談などに応じています。

障害が続く場合には身体障害者・知的障害者・精神障害者等の障害手帳に関する相談とその福祉制度の活用相談にのります。

また障害年金制度や特別児童扶養手当金制度等の利用相談などに応じます。

社会生活訓練や職業訓練を受けたい、福祉的就労を考えたいなどの相談などに応じます。

慢性疾患を持った子の子育て応援を行う地域療育機関（保健センター、社会福祉事務所、児童相談所、医療機関、訪問看護ステーションなど）とのネットワークの構築や連携を行なっています。

高齢者・障害者や認知症者が地域で安心して暮らすために地域包括支援センター、地域生活支援センター、社会福祉事務所、保健所等とネットワークを構築し、連携をとりながら相談援助を行ないます。

これらの例のように、病気やけがによっておこる「生活のしづらさ」に対して専門的な相談にのります。どうぞ安心してご相談ください。

なお、平成21年1月より、患者相談室、退院支援室と合同の場所（西棟1階）となり、総合的に相談ができるようになります。それまでの間、当相談室は新患受付のとなりで活動しています。

## 医療社会事業相談室のご案内

相談対応日 月曜日～金曜日（休診日を除く）  
 対応時間 8:50～17:30  
 場所 医療社会事業相談室（新患受付となり）  
 電話番号 052-481-5111（内線 5400、5401）  
 FAX番号 052-471-5261

### 相談方法

- 直接お越しください。
- 医師、看護師にご相談ください。  
（事前に予約できるとお待たせしません）

※ 相談者のプライバシーは厳守いたします。

### 正しい薬の飲み方

## お薬の知識 10

～血圧を下げるお薬(2) 利尿剤～



体内の塩分量が濃くなると、体は薄めようとして水分を余計に摂ろうとします。これによって、体液の量が増え、結果的に血圧が上がります。利尿剤は、尿を増やすことによって（利尿）余分な水分や塩分を出すことでむくみをとり、血圧を下げる働きをします。現在、利尿剤には、「サイアザイド系利尿薬」、「ループ利尿薬」、「K（カリウム）保持性利尿薬」と呼ばれるものがあります。

「サイアザイド系利尿薬」、「ループ利尿薬」は、ともに利尿作用は強いものの、尿とともに体内のカリウムなども一緒に出てしまうという特徴があります。このため、カリウムなどを一緒に服用することがあります。服用上の注意としては、胎盤を通過し胎児に影響を及ぼす危険性があること、母乳へ移行し分泌されること、また血糖値を上げたり、尿酸を増やすことがあるので注意が必要です。

一方、「K（カリウム）保持性利尿薬」は、ナトリウムは排泄するものの、カリウムは排泄しないという特徴を持っています。このため、カリウムを排泄させる「サイアザイド系利尿薬」、「ループ利尿薬」の少量を一緒に用いることが一般的に好まれています。服用上の注意としては、高カリウム血症が起こる可能性があること、また一部の薬剤は、月経障害を悪化させるといわれていますので注意が必要です。

以上、利尿剤についてご紹介しましたが、服用上の注意は一部を示しただけですので、実際の服用に際しては、お薬を十分に理解したうえで服用してください。





# 外来診療担当医表

※担当医は都合により変更になる事がございますのでご了承ください。

2008年11月1日現在

診療科目	月	火	水	木	金	
内科	血液	小澤 PM今橋	宮村 PM塚本	宮村 PM榛葉 PM西脇	小澤 PM瀬戸	榛葉 PM渡邊
	内分泌	村瀬 (山内)	足立 (山守)	山守 -	村瀬 (山守)	山内 (村瀬)
	腎臓	青山	市田	-	吉田	市田
	神経	加藤 若山	真野 若山	後藤 加藤	真野 中村	後藤 櫻井
	循環器	神谷 (交代)	花木 三浦	大野 神谷	大野 柴田	柴田 片岡
		三浦 PM永廣	-	小栗	-	PM山村
		呼吸器 新患 再診	酒井 野村	横山 田中	伊藤 横山	野村 酒井
	消化器	伊東	春田	伊東	山口	春田
		山田 松下	山口 佐々木	鷲見 平山	山田 佐々木 PM松下	鷲見 平山
	※初診時に予診(医師による問診)を行った後、各専門外来を受診していただきます。					

小児科	午前	羽田野	加藤	松本	羽田野	河井	
		鈴木	糸見	生駒	鬼頭	近藤	
		岸	永田	安田	三井	吉田	
	午後(専門外来)	兵藤	横塚	坂口	月舘	孫田	
		循環器	羽田野	-	-	-	
		血液	-	加藤	-	松本	加藤
		神経	-	-	近藤	糸見	夏目
		腎臓	-	月舘	-	-	月舘
		新生児発達	鬼頭 横塚/孫田	-	-	-	-
		フォローアップ	-	-	(交代)	-	-
予防接種	-	(交代)	-	-	-		
乳児健診	-	-	(交代)	-	-		
※予防接種・乳児健診は10日前までにご予約ください。詳しくは受付にお問い合わせください。							

外科	一般消化器外科	宮田	竹内	小林(陽)	長澤	宮田
		三宅	大森	湯浅	PM竹内	三宅
		村田	-	田畑	-	川合
	乳腺・内分泌外科	-	PM後藤	後藤	後藤	-
	心臓外科	山名	伊藤	阿部	-	河村 PM中山
	血管外科	-	錦見/PM小山	-	永田	-
呼吸器外科	PM石黒	PM森	-	-	森	
小児外科	津田	-	-	津田	-	

形成外科	午後	林/菱田	-	菱田	-	林
※月・水・金曜日 13時から診療開始いたします。						

整形外科	大澤	堀井	井上	堀井	大澤
	井上	藁科	青木	藁科	青木
	服部	松下	松下	服部	広石
	松本	米田	松本	広石	米田

診療科目	月	火	水	木	金
脳神経外科	稲尾	(交代)	稲尾	(交代)	池田
	長坂		告野		岡本

皮膚科	新患	北村	田中	有本	太田	松本
	再診	太田	北村	太田	北村	太田
		-	太田	北村	-	北村

泌尿器科	加藤	村瀬	山本	鈴木(弘)	村瀬
	吉田	山本	鈴木(弘)	加藤	古橋
	-	-	PM加藤	-	-
女性泌尿器外来	-	加藤	鈴木(省)	-	-
※新患は(水)もしくは(木)にご来院ください。 ※鈴木(省)先生の診察は産婦人科外来にて行います。					

産婦人科	新患	石川	石川	石川	石川	石川
	再診	堀	水野	-	水野	南/廣川
	生体内分泌・内視鏡	安藤	安藤	-	安藤	安藤
	妊婦診 助産師外来	廣村/交代	古橋	斎藤/交代	吉田	PM横西/新保 助産師

眼科	新患	佐藤	山腰	佐藤	片岡	(交代)
	再診	杉田	-	山腰	-	佐藤
		山腰	-	片岡	-	山腰
	-	-	-	-	片岡・久野	

耳鼻咽喉科	新患	鈴木	内木	植田	西川	古橋
	再診	植田	鈴木	内木	植田	内木
	古橋	西川	鈴木	古橋	西川	

リハビリテーション	青木/堀井	井上	大澤	大澤/井上	藁科
-----------	-------	----	----	-------	----

放射線科	山田	山田	山田	山田	山田
	※詳しくは受付にお問い合わせください。				

歯科 口腔外科	新患	大岩	藤原	(交代)	渡邊	(交代)
	再診	藤原	大岩	-	大岩	-
		渡邊	佐藤	-	藤原	-
	佐久間	橋本/野田	-	佐藤	-	
※口腔外科診療のみで、通常の歯科診療は行っておりません。						

◎休診情報はホームページでご覧いただけます。  
ホームページアドレス <http://www.nagoya-1st.jrc.or.jp/>

### 外来診療のご案内

お問い合わせ先電話 052-481-5111(代表)

- **初診** 総合案内で「診療申込票」に必要事項をご記入の上、(初めて受診される方) 保険証・紹介状・各種医療証等を添えて、新患受付にお出ください。
- **診療受付時間** 午前8時20分～午前11時 (緊急および予約されている方はこの限りではありません)
- **診療時間** 午前8時50分～午後5時30分
- **休診日** 土曜・日曜・祝日 年末年始(12月29日～1月3日) 日本赤十字社創立記念日(5月1日)
- **セカンドオピニオン 専門外来** 詳しくは患者相談室までお問い合わせください。 患者相談室 電話 052-485-3503(直通)

### 人間ドックのご案内

年に一度の健康管理をしてみませんか?

- **健康管理センター** 電話にてお問い合わせください。(予約制です。)
- **受付時間** 月～金曜日(休診日を除く) 午前8時50分～午後5時30分 電話 052-471-3855(直通)